

ウ 主な課題と指導改善の方向性
(ア) 愛知県と全国の正答率の差から見た課題

※ マークは報告書、授業アイデア列の参照ページ
 ㊦は「平成25年度 全国学力・学習状況調査 報告書」
 ㊧は「授業アイデア列」

	調査結果における主な課題	改善の方向性
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の内容を適切に捉え、図と文章との関係を捉えること。 (例) B①二 (県60.9/国62.7) ・ 図が示す内容を説明したものとして適切なものを選択する。 ○ 文章の構成や表現の特徴を捉えること。 (例) B③一 (60.0/61.0) ・ 新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する。 ◆過去の関連問題…H22 中B①二 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の内容を適切に捉え、図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認し、文章中の言葉を使って図表が果たしている役割を説明したり、文章の中に図表がある場合とない場合とを比較したりする。㊦中国報p60～ ・ 複数の新聞記事を読み比べて、リードにかかれていることが本文でどのように表現されているかに着目して読む学習活動や見出しと本文に合わせてリードを書く学習活動を設定する。 ㊦中国報p72～ H25 中㊦p8
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ 例文の内容や文章構成を読み取り、情報を適切に取り上げて書くこと。 (例) A③二 (47.9/48.8) ・ 出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く。◆過去の関連問題…H22 小A④ ○ 文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。 (例) B②三 (64.6/65.7) ・ 文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く。◆過去の関連問題…H22 中B①三 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞などからモデルとなる文章を示し、情報の取り上げ方や書き方の工夫点を確認した上で、自分の表現に生かして書く学習活動の中で書いた文章の構成や、書き方を工夫した点について助言し合う。 ㊦中国報p31～ H25 中㊦p13～ ・ 文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことを書く際、その根拠として本文を引用することで、より分かりやすい説明をすることができるようにする。 ㊦中国報p69～ H25 中㊦p11～
国語の特質に関する事項 伝統的な言語文化と	<ul style="list-style-type: none"> ○ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。 (例) A⑧三 ※6問中4問が全国を下回った。 ・ 適切な語句を選択する。 ア「今年の夏の暑さには(平行, 平衡, 並行, 閉口)した」(46.0/46.6) イ「友達に将来の(抱負, 初心, 意志, 感想)を話す」(59.8/62.7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書量を増やして、慣用句や普段あまり使わない言い回しにふれる体験や、授業で使ってみる体験を増やす必要がある。 ㊦中国報p51～

- ・ 読み取ったこと基に考えたり書いたりすることに課題が見られた。
- ・ 示された条件を網羅して答えたり、文章や資料を引用して答えたりする問題で課題が見られた。

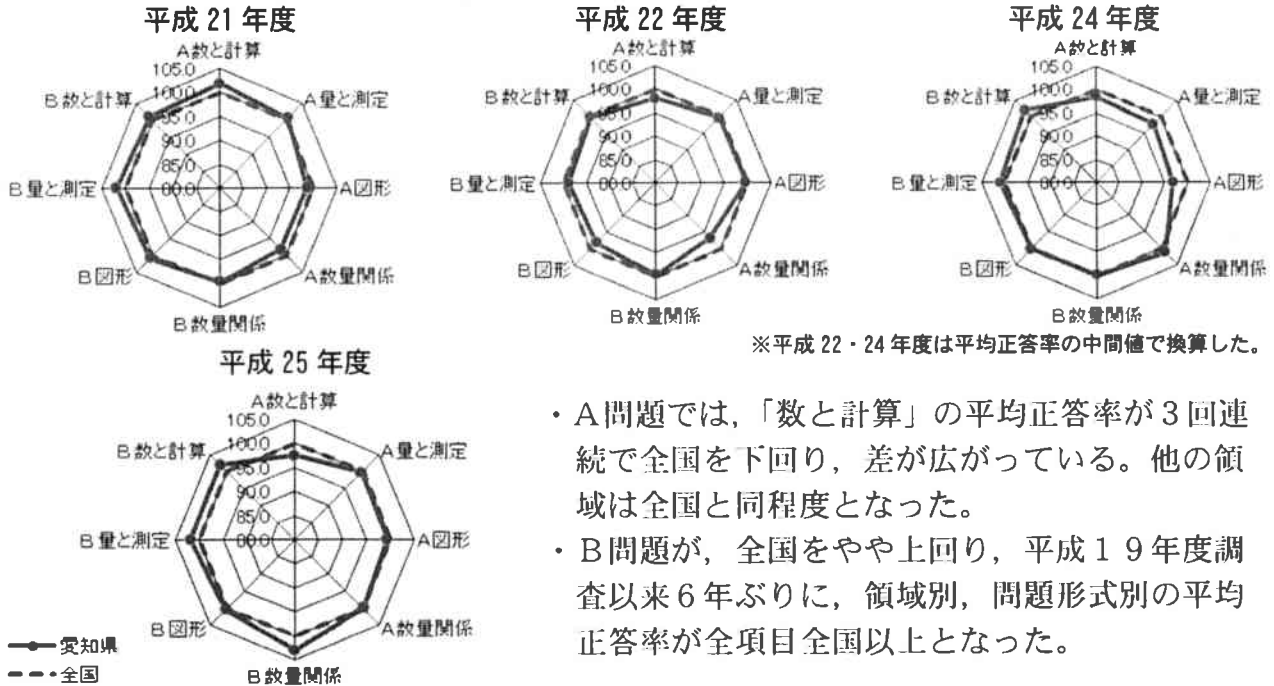
(イ) 全国的に平均正答率の低い設問から見た課題

調査結果における主な課題	改善の方向性
<p>読むこと、書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること。B①三 ○ 漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くこと。B③三 ◆過去の関連問題…H20 B③三、H24 B①三 ○ 書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと。A③一 <p>話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと。A①二 <p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 比喩を用いた表現について理解すること。A⑦一 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を収集する複数の手段を用いて、それぞれの手段の特徴について考えた上で、自分の課題の解決に適した具体的な手順を考え、それについて検討し合う。㊦中国報p63～ H25中㊦p9～ ・ 自分の意見を明らかにし、その根拠となる事実を明確に示して説明する工夫をさせる。 ㊦中国報p74～ ・ 伝えたいことを明確に捉えて、書いた文章に見出しをつける学習活動を設定する。㊦中国報p30～ ・ ビデオカメラやタブレット型PCを活用するなどして、話合いの過程を動画で記録し、司会の仕方について振り返る場を設定する。㊦中国報p26～ H25中㊦p7 ・ 比喩などの表現活動に着目し、自分の体験と結びつけて情景を想像しながら、内容をだまかに捉えるようにする。㊦中国報p55～

4 算数・数学の傾向と改善の方策

(1) 小学校算数の傾向

ア 領域・評価観点・解答形式別で見た傾向（全国を基準とした比較）



全国の平均正答率との差 (%)		平成 2 1 年度		平成 2 2 年度		平成 2 4 年度		平成 2 5 年度	
		A 知識	B 活用	A 知識	B 活用	A 知識	B 活用	A 知識	B 活用
教科全体の正答率		0.5	0.4					-1.0	1.1
領域等	① 数と計算	1.4	0.6	-1.5	-0.1	-1.2	1.0	-2.1	0.9
	② 量と測定	0.5	1.1	-0.3	-0.4	-1.6	0.6	-0.3	1.0
	③ 図形	-1.1	0.4	-0.4	-0.8	-2.4	0.2	-0.5	0.4
	④ 数量関係	-1.1	-0.2	-2.1	-0.2	0.9	-0.1	0.1	1.6
評価の観点	数学的な考え方		0.2		-0.5		0.6		1.3
	数量や図形についての表現・処理	0.6	0.8	-1.0	-1.0	-1.1	0.7	-2.7	0.5
	数量や図形についての知識・理解	0.2		-1.1	0.3	-1.4	-0.8	0.3	0.8
問題形式	選択式	1.4	-0.3	-0.5	0.0	-1.8	-0.4	0.8	0.8
	短答式	0.1	0.8	-1.4	0.0	-1.1	0.6	-2.2	1.3
	記述式		0.0		-1.1		0.7		1.1

イ 無回答率から見た傾向（平均正答率が60%未満で、無回答率が10%以上の設問） (%)

設問番号	領域	形式	平均正答率	無回答率	設問番号	領域	形式	平均正答率	無回答率
B 2 (3)	②④	記述	36.2	19.1	B 4 (1)	①②	記述	44.4	12.3
B 3 (2)	②	記述	43.4	16.5					

問題形式では、記述式の問題の平均正答率が全国よりもやや高い反面、平均正答率が低く、無回答率が高い3問は、すべて記述式の問題であった。

ウ 主な課題と指導改善の方向性

※ ㊦マークは報告書 授業アイデア例の参照ページ
 ㊦は「平成25年度 全国学力・学習状況調査 報告書」
 ㊦は「授業アイデア例」

(ア) 愛知県と全国の平均正答率の差から見た課題

番号	問題 ○数字：学習学年	平均正答率 (%)	主な誤答例 (反応率)	改善の方向性
① (1)	㉓ 243-65	県/国 86.0/88.2	188 (2.1%)	第2学年の整数の加法・減法の筆算の学習から、加法・減法の筆算では同じ位同士で計算を行うことを意識させる。
① (2)	㉔ 0.75+0.9	60.4/71.3	0.84, 8.4, 84 0.084 (31.2%)	小数の加法減法では、位置を合わせて筆算すること、小数点の位置は、乗法除法とは違うことを指導する。
① (4)	㉔ 6÷5	86.1/88.3	12 (5.7%)	余りの1を0.1が10個集まった数と見て、10を5等分して商が0.2となることを確認する。
① (5)	㉔ 16-(6+3)	93.3/94.4	解答類型外 (4.8%)	()を用いた計算や四則の混じった計算をする指導を継続して行う。
① (6)	㉔ 2と5/7+1と1/7	82.8/88.9	解答類型外 (10.7%)	解答類型に当てはまらない解答をしている児童が国の平均より4.6%も多い。一人一人のつまづきを捉えた指導が必要。

※「解答類型外」：誤答の理由が予想できる解答類型に当てはまらない解答

基礎的な計算(A問題)

調査結果における主な課題

改善の方向性

図形

- 円柱について、底面の円周の長さや展開図の側面の辺の長さなどが対応していることを理解すること。
 (例) A⑦(2)
 ・ 展開図に示された側面の長方形の横の辺の長さを求める式と答えを書く。(県 63.8/国 66.3)

- ・ 教科書には、展開図から立体を組み立てる活動が掲載されているが、逆に立体を切り開く活動も行い、側面の横の長さや底面の円周の長さが等しいことを実感的に捉える。
 ㊦小算報p48~

計算問題では、第5学年の内容は全国を上回り、第4学年以下の内容が全国を下回る傾向が見られる。新出の内容を学習する度に、既習内容を十分に理解できているかを確認して授業を進めたい。

(イ) 全国的に平均正答率の低い設問から見た課題

調査結果における主な課題

改善の方向性

数量関係

- 図や表を観察して、問題の解決に必要な情報を選択すること。B①(1)
- 場面の状況に基づいて式を的確に読むこと。B②(1)

量と測定

- 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解すること。A④

図形

- 三角形ABCと合同な三角形をかくために必要な条件を理解すること。A⑥
- 図形について分かったことを他の図形に当てはめて調べる。B③(3)

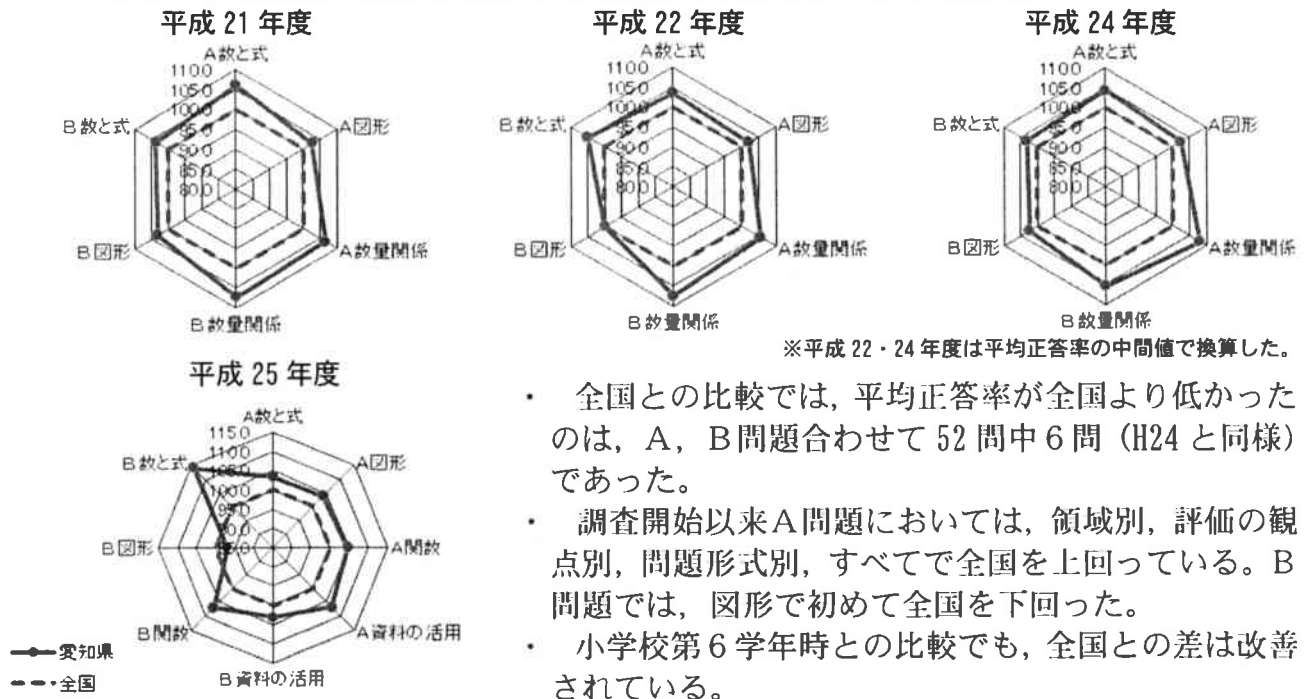
記述式の解答 B②(3), B③(2), B④(1), B⑤(2)

- 場面の状況や問題の条件に基づいて、事実や方法、理由について、必要な事柄を言葉や数を用いて過不足なく記述すること。
- 根拠となる事柄として、算数を適切に活用すること。

- ・ 資料や問題から情報や条件を表や印を使って整理する。㊦小算報p57~ H25小㊦15~
- ・ 「平均」の意味を理解して正しく使う場を設ける。
 ㊦小算報p63~
- ・ 問題を図や線分図等に表示し、それをもとに立式し、出されたいくつかの式の意味について説明する活動を行う。㊦小算報p37~
- ・ 合同な三角形をかいたり、合同条件を覚えたりする学習にあわせて、かくことができない場合について考えさせるような授業展開を工夫する。
 ㊦小算報p44~
- ・ 正方形で成り立つきまりが、長方形や台形、平行四辺形やひし形など別の四角形でも成り立つかを調べる活動を取り入れる。
 ㊦小算報p73~ H25小㊦19~
- ・ 二(三)者択一の理由を問う問題については、二(三)者それぞれの根拠を数や式、言葉などを用いて説明した上で、結論を述べる習慣を身に付けさせたい。
 ㊦小㊦p21~22, p17~18

(2) 中学校数学の傾向

ア 領域・評価観点・解答形式別で見た傾向（全国を基準とした比較）



全国の平均正答率との差 (%)		平成 22 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		小 6 時 (H22)	
		A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
教科全体の平均正答率						2.6	3.0		
領域等	① 数と式 (数と計算)	2.6	2.1	2.9	1.3	2.5	5.9	-1.5	-0.1
	② 図形 (量と測定)	1.4	0.0	1.7	1.4	2.5	-1.3	-0.4	-0.8
	③ 関数 (数量関係)	3.0	3.3	4.2	2.1	2.7	2.8	-0.3	-0.4
	④ 資料の活用					3.3	1.3	-2.1	-0.2
評価の観点	数学的な見方や考え方								
	数学的な技能					2.0	2.4		-0.5
	数量や図形などについての知識・理解	2.7	3.4	3.8	2.1	2.9	6.5	-1.0	-1.0
問題形式	数量や図形などについての知識・理解	2.1		2.4	0.2	2.4	2.9	-1.1	0.3
	選択式	2.0	3.1	2.2	0.6	2.2	2.0	-0.5	0.0
	短答式	2.7	1.9	4.0	1.7	3.1	4.7	-1.4	0.0
	記述式					1.9	2.0	2.3	-1.1

※ () 内は小学校の領域・評価の観点

イ 無回答率から見た傾向（平均正答率が60%未満で、無回答率が10%以上の設問） (%)

番号	領域	形式	平均正答率	無回答率	番号	観点	形式	平均正答率	無回答率
A 2 (3)	①	短答	34.8	15.7	B 4 (1)	②	記述	31.8%	23.7
A 1 2	③	短答	58.8	16.0	B 2 (2)	①	記述	40.7%	32.2
A 1 1 (2)	③	短答	44.6	21.0	B 3 (2)	③	記述	33.1%	32.6
A 1 4 (2)	④	短答	23.1	22.5	B 6 (3)	①	記述	29.4%	37.1
B 1 (2)	③	短答	36.0	19.0	B 5 (2)	④	記述	25.9%	40.9
B 2 (1)	①	記述	41.1	21.6					

※ ○数字は学習指導要領の領域を示す。

平均正答率が60%未満で、無回答率が10%以上の設問が11問あり、B問題の記述式7問中6問が入っており、課題が見られる。

ウ 主な課題と指導改善の方向性

(ア) 愛知県と全国の平均正答率の差から見た課題

	調査結果における主な課題	改善の方向性
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○ 角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を見いだすこと。 (例) A[4](2) ◆過去の関連問題 H20A[4](2) ・ 角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ。(県 47.3/国 48.9) ○ 条件を整理したり、着目すべき性質を見いだしたりするなどして、示された方針に基づいて証明すること。 (例) B[4](1) ◆過去の関連問題 H21B[4](1) ・ 2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する。(31.8/32.4) (例) B[4](2) ◆過去の関連問題 H21B[4](3) ・ 2つの辺の長さが等しいことを証明する際に、根拠として用いる平行四辺形になるための条件を選ぶ。(55.2/57.1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 角の二等分線の作図によってできた図形の特徴について話し合ったり、実際にその図形を対角線で折ったり切ったりして、その特徴を確かめる活動を設定する。☞中数(報)p43~ ・ 図形の性質を利用して証明の方針を立てる場面やその方針に従って証明する場面で、生徒が互いに評価し合い、書き方を工夫する活動を取り入れる。 ☞中数(報)p111~ H25 中(ア)p21~ ・ 例題や一つの証明を行った後に、着目する図形を変えて新たな方針を立てて証明する活動を取り入れる。 ☞中数(報)p115~ H25 中(ア)p19~
関数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関数の意味を理解すること。 (例) A[9] ・ y が x の関数である事象を選ぶ。 (12.3/13.8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整数とその絶対値、自然数とその約数の個数、扇形の中心角の大きさとこの長さや面積など、既習の数や図形の性質などを関数の視点から考察する活動を行う。☞中数(報)p64~

(イ) 全国的に平均正答率の低い設問から見た課題

	調査結果における主な課題	改善の方向性
	<p>数と式</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明すること。B[6](3) <p>図形</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作図の手順と平行四辺形になるための条件を関連付けて理解すること。A[7](3) ◆過去の関連問題 H22A[7] ○ 球の体積について量感と数式を結び付けて考察し、理解すること。A[5](3) <p>関数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや、言葉で表現された事柄の数学的な意味を的確に捉え、他の事象との関係を考えること。B[3](2)(3)、B[1](3) <p>資料の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ヒストグラム」、「相対度数」、「確率」などの用語の意味や性質を理解したり、簡単な場合について確率を求めたりすること。A[14](2)、A[15](1) ○ 資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明すること。B[5](2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な操作を式で表現したり、式が表している内容を具体的な操作に即して解釈したりする活動を取り入れ、生徒一人一人の多様な表現や解釈についてグループや学級で吟味する場面を設定する。 ☞中数(報)p64~ H25 中(ア)p18 ・ いろいろな図形の性質を基にした作図の仕方を考える活動を取り入れる。☞中数(報)p61~ ・ 立体の体積を実感できる実験を取り入れたり、実験の結果について公式を使って確かめたりする活動を取り入れる。☞中数(報)p51~ H23 中(ア)p3~ ・ 数学の授業に実験等の操作を取り入れるだけでなく、理科の実験結果を数学的に考察する授業を設定するなど、他教科との合科的な扱いをすることも考えられる。☞中数(報)p95~、106~ ・ 「ヒストグラム」、「相対度数」、「確率」などの資料の活用で用いる数学用語とその意味、性質について押さえた上で、他の単元、他の教科(領域)でも活用する場を多く設ける。 ・ 資料から分かったことを説明する際、前提と結論それぞれにあたる部分を明確にして表現するように指導する。☞中数(報)p118~

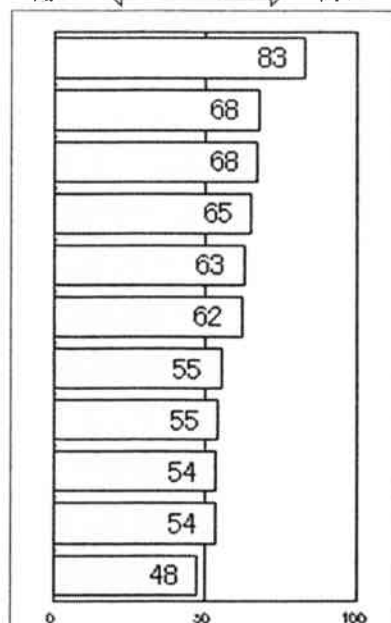
記述式の問題 7 問中 6 問が平均正答率が 50%未満で無回答率が 20%を超えている。全国よりも平均正答率が高く無回答率は低いが、これらの問題に 2 割~ 4 割の生徒が無回答であることを考えると、これらの生徒への授業での配慮が必要である。

5 児童質問紙から見られた傾向

(1) 学習への関心・意欲・態度に関する傾向

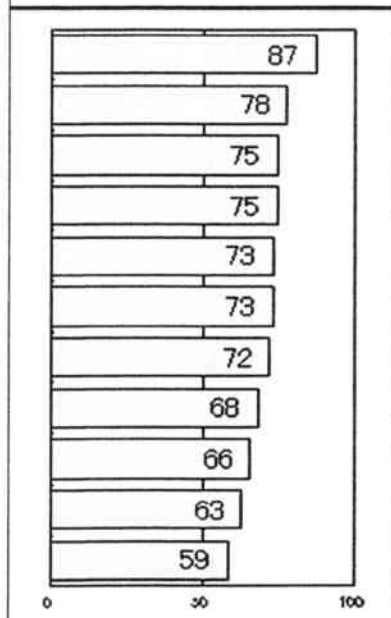
愛知県結果

低い ← → 高い



<国語に関する質問>

- ・国語の勉強は大切だと思いますか
- ・物語を読むときに、目的に応じて登場人物の気持ちを考えていますか
- ・国語の授業の内容はよく分かりますか
- ・文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか
- ・自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか
- ・調べたことや自分の考えたことを読み手に伝わるように気を付けながら書いていますか
- ・目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか
- ・意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか
- ・国語の勉強は好きですか
- ・必要な情報を得るために、文章の内容とグラフなどを合わせて考えますか
- ・話し合いをするときに、司会者として発言をまとめたり、参加者として立場や理由を明らかにして発言したりしますか

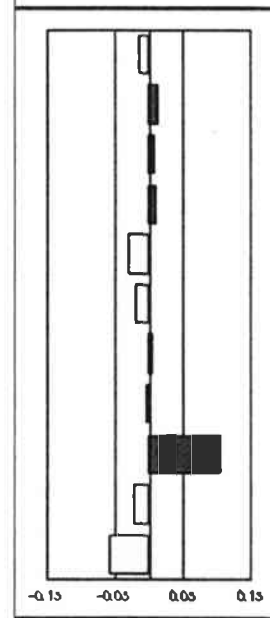
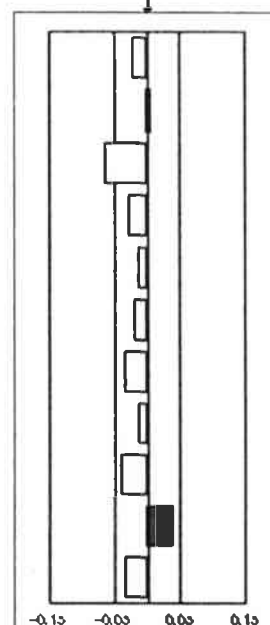


<算数に関する質問>

- ・算数の勉強は大切だと思いますか
- ・問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか
- ・新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか
- ・問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか
- ・公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか
- ・算数の授業の内容はよく分かりますか
- ・問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか
- ・計算をするときに、もっと簡単に計算することができるように工夫をしたことがありますか
- ・普段の生活で、身のまわりにある割合の表現について、実際に計算したことがありますか
- ・算数の勉強は好きですか
- ・問題を解くときに、なぜこの式に表したのかという理由を考えますか

全国比較

← 全国値 → +

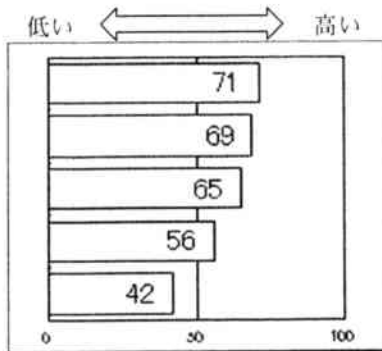


愛知県結果 100%の児童が「1 当てはまる」と回答した場合「1 0 0」、「2 どちらかといえば当てはまる」と回答した場合「6 7」、「3 どちらかといえば当てはまらない」と回答した場合「3 3」、「4 あてはまらない」と回答した場合「0」となる数に換算した数。
 全国比較 選択肢1を1点のように得点化し、平均した値で比較。全国値は0.00

◇本県の傾向

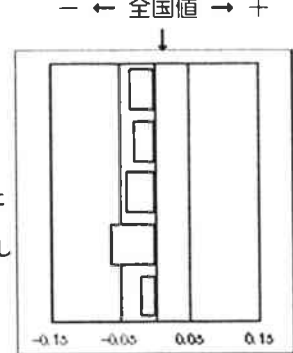
- ・国語や算数の重要性はよく理解している反面、「国語や算数の勉強は好きですか」に対する回答は低い。経年比較では、少しずつ改善の兆しが見られるので、引き続き関心・意欲を高める指導を続けていきたい。
- ・算数における教科に関する調査の課題から考えると、「問題を解くときに、なぜこの式に表したのかという理由を考える」児童が少ない状況を改善したい。

愛知県結果



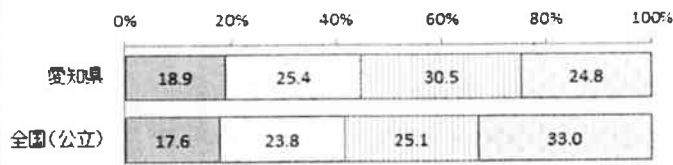
- ・「総合的な学習の時間」で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか
- ・英語の学習は好きですか
- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいしてみたいと思いますか
- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- ・将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか

全国比較



英語を学び始めた時期

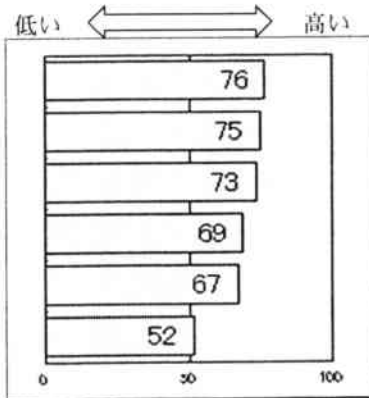
□小学校入学前 □小学校1, 2年 □小学校3, 4年 □小学校5, 6年



◇本県の傾向

英語を学び始めた時期は、全国に比べ早い傾向がある割に、英語や国際理解に関する項目の肯定的な回答が低い。コミュニケーション活動の楽しさを味わわせる指導が望まれる。

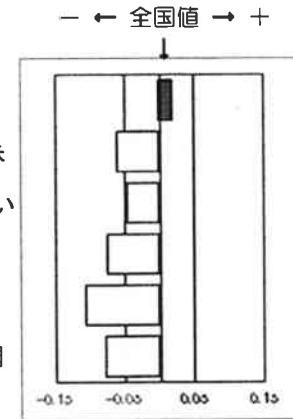
愛知県結果



<学習方法・内容に関する質問>

- ・コンピュータや電子黒板を使った授業は分かりやすいと思いますか
- ・普段の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか
- ・普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか
- ・普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか
- ・普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか
- ・普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか

全国比較



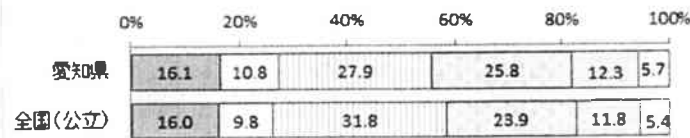
◇本県の傾向

学校質問紙では情報機器の活用が全国に比べ低いという現状がある。児童は「コンピュータや電子黒板を使った授業は分かりやすい」と感じているので、この点を授業改善の一つの視点とすることができそうである。

「話し合う活動をよく行っている」と感じている児童が、学校質問紙の教師の意識に比べ 10 ポイント以上低い状況となっている。この差を埋めることも授業改善のポイントである。

授業中分からないことがあったらどうするか

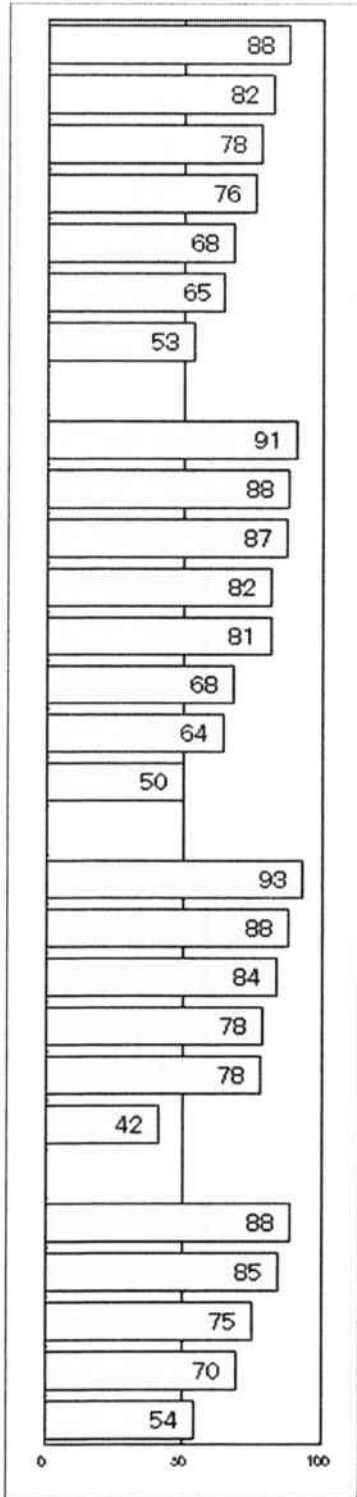
□その場で先生に尋ねる □授業後先生に尋ねる □友達に尋ねる
□家の人に尋ねる □自分で調べる □そのまましておく



(2) 道徳性に関する傾向

愛知県結果

低い ← → 高い



<自分自身に関すること>

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
- ・自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がありますか
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか
- ・あなたには「あのような人になりたい」と思う人はいますか
- ・自分には、よいところがあると思いますか
- ・難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか
- ・自分の行動や発言に自信を持っていますか

<身近な人との関わりに関すること>

- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- ・友達との約束を守っていますか
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか
- ・一人一人の人間には考えや性格などに違いがあるということ大切にしていますか
- ・友達が悪いことをしたときは注意しますか
- ・友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか
- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか

<学校や地域・社会に関すること>

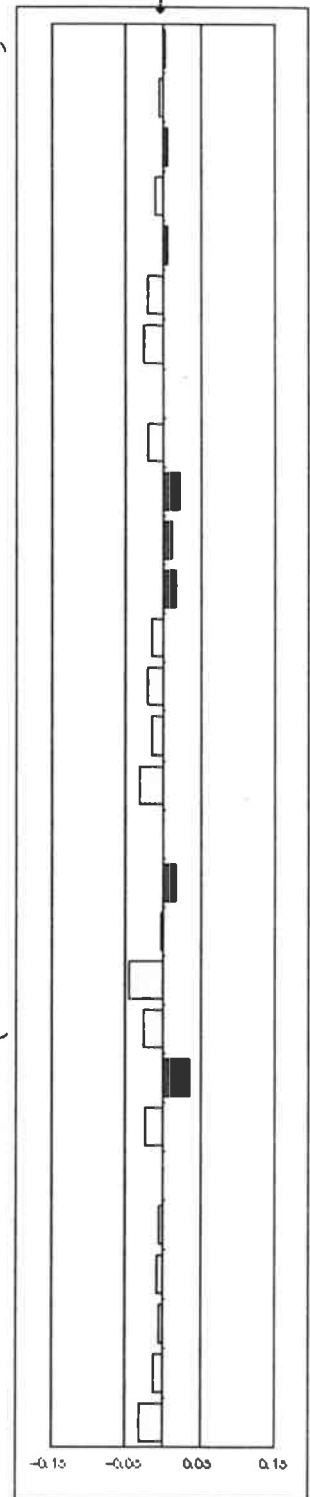
- ・学校で友達に会うのは楽しいと思いますか
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- ・近所の人に会ったときは、挨拶をしていますか
- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか
- ・学校のきまりを守っていますか
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

<将来に関すること>

- ・将来何かの職業や仕事に就いて働きたいと思いますか
- ・将来の夢や目標を持っていますか
- ・将来の夢や目標を実現するために努力していますか
- ・家の手伝いをしていますか
- ・家の人と将来のことについて話すことがありますか

◇本県の傾向

全国比較
← 全国値 → +



道徳的に大切なことは理解しているが、人前で行動したり発言したりすることに苦手意識をもっている児童が多い。

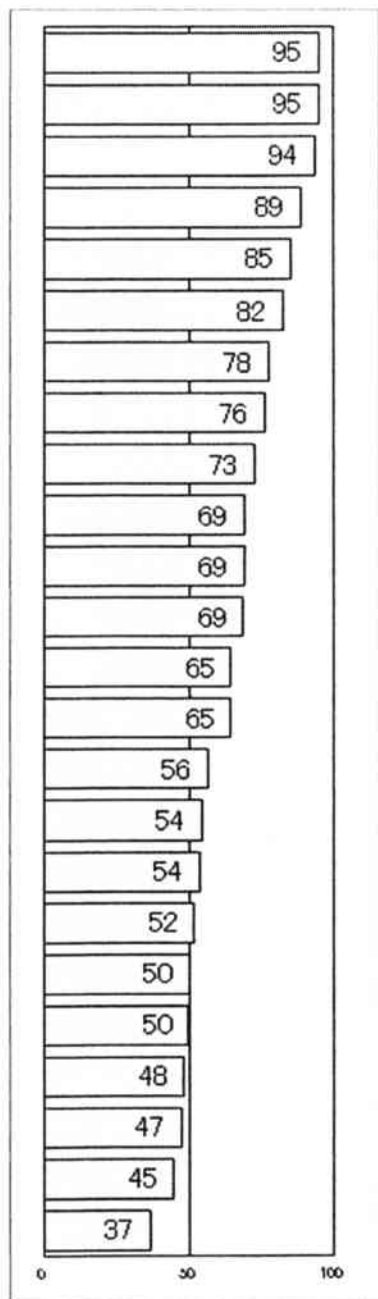
ここにあげた項目については、肯定的な回答をしなかった児童に焦点を当てた指導も重要であり、すべての児童が「いじめはいけない」「学校は楽しい」等と感じられるような指導を心がけたい。

(3) 学習を支える生活環境・習慣に関する傾向

ア 全体の傾向

愛知県結果

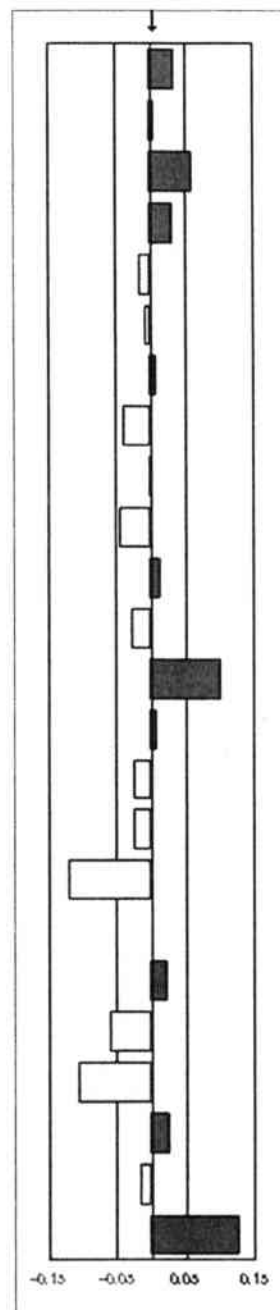
低い ← → 高い



<生活習慣・地域との関わりに関する質問>

- ・家で、学校の宿題をしていますか
- ・朝食を毎日食べていますか
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
- ・家の人と普段、夕食を一緒に食べていますか
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
- ・自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか
- ・家の人と学校での出来事について話をしていますか
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
- ・年上や年下の友達と一緒に遊んだり、勉強したりすることがありますか
- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしていますか
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
- ・地域の大人から褒められたことがありますか
- ・家の人に「勉強しなさい」と言われますか
- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか
- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ・家で、テストで間違えた問題について勉強していますか
- ・地域の大人から注意されたことや、友達や他の子どもが注意されているのを見たことがありますか
- ・家で、苦手な教科の勉強をしていますか
- ・家で、学校の授業の復習をしていますか
- ・地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか
- ・家で、学校の授業の予習をしていますか
- ・新聞を読んでいますか

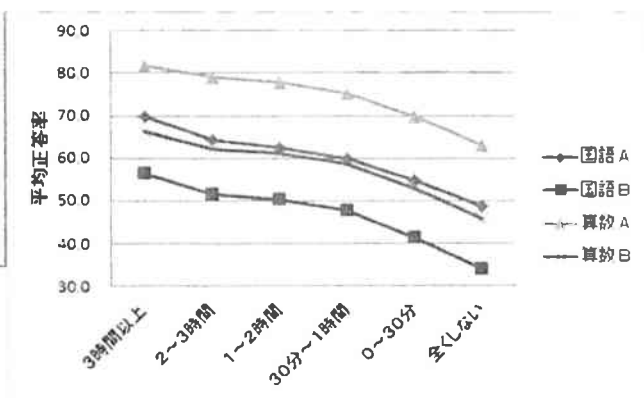
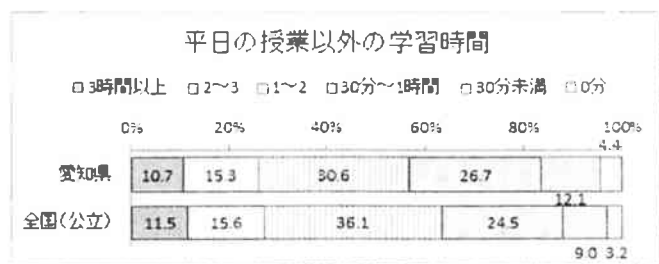
全国比較
← 全国値 → +



◇本県の傾向

- ・全国に比べ地域の行事に参加する小学生や学校行事に参加する保護者が多い状況が明らかになった。
- ・家庭学習では、宿題をしっかりと行うことができる反面、自分で計画を立てて勉強したり、予習や復習を行ったりする児童の割合は少ない。
- ・新聞を読んでいる児童は少ないが、全国と比較すると多い。

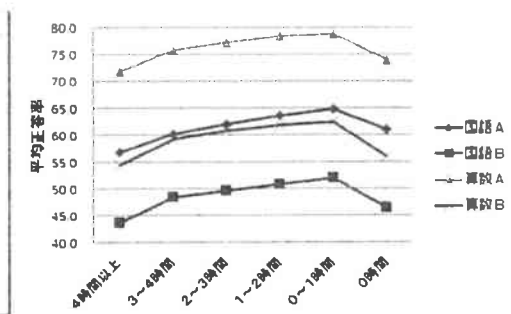
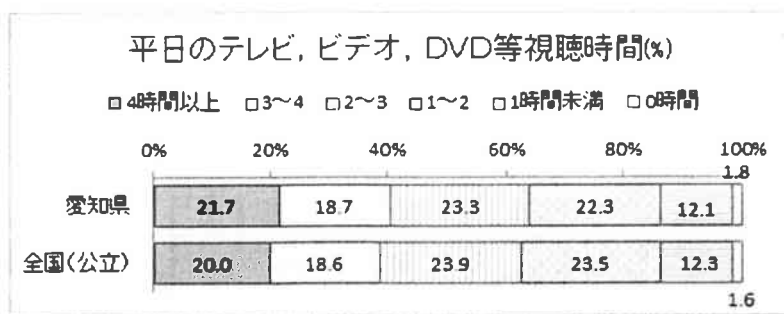
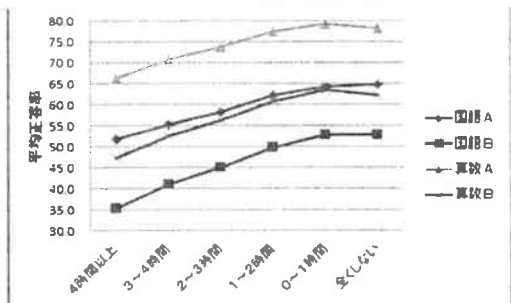
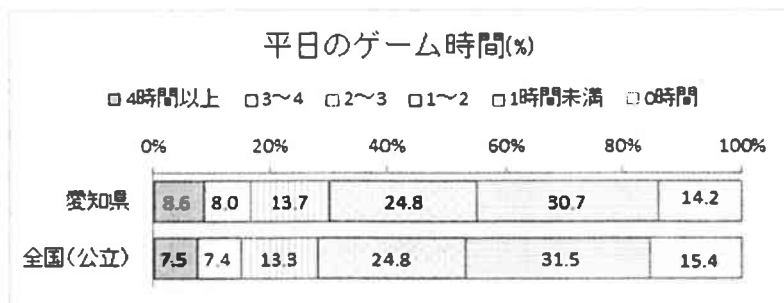
イ 学習時間と平均正答に関する傾向



◇本県の傾向

30分以上家庭学習をする児童が全国より少ない。平均正答率と平日の家庭学習の時間は上のグラフのように強い相関がある。教科に関する調査の課題解決のためには、家庭学習の充実も必要である。

ウ ゲーム・テレビ視聴時間等と平均正答率に関する傾向



◇本県の傾向

1日に3時間以上テレビやビデオを視聴したりゲームをしたりする小学生が、3~4割に上る。反面、「家族と学校のことや将来のことを話す」、「読書をする」時間が少ないという傾向があるので、家庭での自分の時間の使い方について指導する必要がある。